

2025年2月16日(日)
中国新聞SELECT掲載



日系社会青年海外協力隊として2018年、ブラジルサンパウロ州モジ・ダス・クルーゼスのコクエーラ地区にあるコクエーラ日本語学校に、日本語教師として着任した。

能力の試験対策、行事の企画や教科書、教材、カリキュラムの作成など。着任当初は孤立無援だったが、カウンタートパートや地域住民との信頼関係を築く上で、草の根レベルの地道な活動が重要だと奮闘した。

JICA
だより



ブラジル
柴田将志さん(33)
三原市在住

行事に参加 信頼を築く

着任当初は地域住民から見向きもされなかった。しかし、学内外を問わず行われる行事や文化活動への参

加を通じて生徒や家族との交流が増えるに従って、食事などに誘われる機会も増えていった。

加えて、カラオケ大会へのお誘いが増えた。参加した生徒の家族の大半が農家であり、新鮮な野菜もたくさんもらった。

彼らに思いをはせる。



日本語学校の生徒たちと

配属先の地域では行事が多
く、歌や踊りな
どの指導もし
た。私に歌や踊
りの指導力はな
くても、生徒は
得意。行事を成
功させたいとい
う目的を彼らと
共有しながら当
日を迎えた。傍
観者ではなく参
加者として彼ら
と羞恥心も分かち合い、歌
や踊りなどを披露した。

それ以降、カラオケ大会
へのお誘いが増えた。参加
した生徒の家族の大半が農
家であり、新鮮な野菜もた
くさんもらった。

これまで出会った生徒や
家族、地域の方々など多く
の方に心配をかけたが、彼
らはこんな私を気遣い、そ
して愛してくれた。今私は
三原市の佐木島でかんきつ
を栽培している。農業をし
ていけば、いつかまた彼ら
に会えると期待し、今日も
島のどこかで「上を向いて
歩こう」と口ずさみながら